2017年4月発行
No.80

三到図書館ニュース

J. F. Oberlin University Library

◇巻頭メッセージ　◇教員からのメッセージ　◇学生の図書館活用
◇学生座談会　◇読書運動プロジェクト　◇図書館からのお知らせ

巻頭メッセージ

知の宇宙への招待

リベラルアーツ学群教授　森　厚

皆さんは、大学でどのようなことをしようと思うでしょうか？知識を身につけたい、会社に入るための準備をしたい、研究したい、遊びたい、仲間を作りたい、…。大学生のときの体験はとても貴重だと思う人が多いです。本学の卒業生も、時々大学を訪ねに来てくれて、そのような話をします。皆さんも大学生活を大切に過ごして欲しいと願っています。

大学で何をするか。それは皆さん自身が見つけてください。しかし、何をするにしても、心に留めておいて欲しいことがあるのです。それを、中国の賢人である孔子が2000年も前に残した言葉に関連づけてお伝えしたいと思います。

學而不思則罔、思而不學則殆　（論語為政二）

この意味は、私の理解では「勉強して考えないのは、物事はっきり見えない。しかし、考えて勉強しないのは危険である。」ということです。皆さんが、何かを勉強しても、応用しなかったら、それは残念です。しかし、知識を身につけておかないと、残念どころではなく、うっかり、とんでもないことになってしまうので気をつけなければなりません。就職活動で、会社を選ぶときに、会社のことを知らなければ、誤った選択をするでしょう。研究するときに、十分な知識を身につけておかなければ、危険なものができてしまうかもしれません。面白いから、と思ってやったことで、大怪我をすることだってあります。何をするにも、あらかじめ知識を身につけておくことが必要なのです。

それでは、知識はどのように身につければいいのでしょうか。最近ではインターネットで検索すれば、たくさんの文字情報や動画がヒットします。とても便利な世の中になりました。ところが、残念ながら、そうした情報は正確でなかったり、散漫で、まとまっていなかったりします。その上、人間の記憶は、目だけでなく、手を動かすことによってよく定着します。ページをめくったり、（図書館の本にはしてはいけませんが）線をひいたり、本を書き写したりすることで定着します。だから、本から知識を得ることも、とても大切なことなのです。それだけではありません。本は、長時間存在し続けます。古い記録も残るのが本です。図書館は本を蓄積しています。そこで、図書館で本に触れることをお勧めします。

図書館には「使い方」があります。図書館に収蔵されている古今東西の知識の量を考えると、まるで知の宇宙のようです。本学の図書館も、蔵書は50万冊を越えます。大学で学ぶことの多くは、図書館だけでも十分勉強できるでしょう。ところが、大学で活動したい内容は人それぞれですから、人それぞれ、図書館で探す本は違うでしょう。その宇宙で迷わず、目的の星にたどり着くための練習は皆さん一人一人に必要です。図書館の使い方をマスターして下さい！とは言っても難しいことではありません。早い段階で、できれば1年生のうちから、図書館に来て館内を歩くようにしていれば、自然と身につくでしょう。また、図書館が開く文献探査セミナーに参加するのも良いでしょう。そうして大学で何かをするときの準備をしておきましょう。

最後に、図書館の別の「使い方」をご紹介しましょう。本学では、学内に様々な学生の団体があります。図書館には「読書運動プロジェクト」がありますし、グループワークをするためのスペースもあります。新しい仲間と出会える場としても活用して欲しいと願っています。

教員からのメッセージ

『沈黙（日向の匂い）』との出会いから

リベラルアーツ学群准教授　長谷川（間瀬）恵美

〈はじめに〉

Obirin-nerのみなさん、こんにちは。宗教学専攻主任の長谷川（間瀬）恵美です。

みなさんは、もう図書館に足を運ばれましたか？

私は他大学を訪れる機会に恵まれた際には、まず図書館とチャペル（仏教や神道系の大学は経堂など）を案内していただきます。それぞれの大学の特徴が表れていて刺激的です。

本校町田キャンパスの図書館は「三到図書館」といいます。読書は「心で集中し・眼で見て・口で朗読する」ことが肝心だという意味です。私が本校に着任した2011年は東日本大震災の年で館内の本が床に散乱し、補修工事が入りました。以後、様々な改革がされて、昨年は情報メディア室が本館に移設されました。現在は図書館の入口がイートインスペースになり、在校生たちが工夫を凝らしてお勧めの図書やＤＶＤを掲示して、アットホームな雰囲気を醸し出しています。ですから、三到図書館はみなさんが居心地よく勉強できる場所を提供しています。

〈遠藤周作『沈黙』（1966）〉

みなさんは、町田市に25年余り住んでいた遠藤周作（1923－1999）の代表作品の一つ『沈黙』を読んだことがありますか？昨年は出版50周年記念の年で、世界各国で様々なイベントが催されました。マーティン・スコセッシ監督が28年の歳月をかけて映画化し全米公開されて大ヒット、日本でも今年1月に公開されました。テキサス基督教大学の教授二名による編著書 *Approaching Silence－New Perspectives on Shusaku Endo's Classic Novel*－がブルームスベリーから出版され、わたしは同書の背表紙に推薦の言葉を書きました。

私の研究テーマの一つが「異文化における宗教の実生化（みしょうか）（インカルチュレーション）」ですので、日本人とキリスト教の相剋をテーマにした遠藤周作の文学は重要な研究対象の一つです。『沈黙』は読者に様々な解釈を許しますが、そこには遠藤が提示する普遍的なキリスト教のメッセージが込められています。ですから、遠藤文学は「特殊にして普遍的」というユニークな文学として世界中で容認されるのだと思います。わたしが初めて遠藤周作の文学に出会ったのは高校生の時でした。それから30年以上、今日まで何度も繰り返し読んでいます。『沈黙（日向の匂い）』に出会っていたから、今の私があります。

〈本の世界へ〉

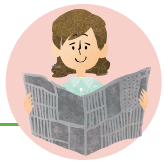
本校には「読プロ」（図書館読書運動プロジェクト）というユニークな学生活動があります。在校生たちが読書会を開き、様々なジャンルの本を推薦してくれます。本を読むことを通じて、いくつもの様々な人生を歩むことが出来ます。このことは、とても素敵なことではないでしょうか？

わたしは、自分ではきっと手に取らないような本を、息子や娘、それから学生さんたちに薦められて読むことがあります。『君の名は』は映画化される前に娘に手渡されて読みました。『聖☆お兄さん』や『ハリーポッター』は、論文に取り上げるというゼミの学生がいたので必死に読みました。

Obirin-nerのみなさん、在学中にたくさん本を読んで自分の世界を広げてください。それから授業で出された課題レポートやゼミ論や卒論を仕上げるのに困ったら、まずは図書館に行くことをお勧めします。文献探索ガイダンスに参加することもできますが、是非、積極的に図書館スタッフを捕まえて尋ねてみてください。きっと優しく相談に乗ってくれます。三到図書館はあなたの学生時代がより一層豊かなものであるようにと、いつも喜んで迎え入れてくれますよ。

学生の図書館活用

学生の図書館活用方法



リベラルアーツ学群4年　田中 駿佑さん

【図書館で自分探し】

新入生の皆さん、桜美林大学へようこそ。皆さんの中には大学で何を学ぼうか、まだ明確に決まっていない方も多くいると思います。そんな皆さんに図書館がいかに有用な施設であるかご紹介したいと思います。

図書館のマップを見ればお分かりになると思いますが、図書館には様々な学問の書籍が数多く所蔵されています。何を専攻するのかまだ決めかねている皆さんは特に、図書館の探索をお勧めします。自分が何に興味があるのかは、自分のことであっても案外わからなかったりするものです。そんなときは本のタイトルを見て、気になった本を片っ端から借りてみてはいかがでしょうか。本は一度に15冊まで借りることができるので、乱読を通じて自分探しをすることができるでしょう。

上に書いたことに通じますが、ジャーナリストの池上彰さんは新聞で気になった記事をスクラップすることで自分の関心分野がわかる、とおっしゃっています。三到図書館では、3階と1階に主要六紙を取り揃えているほか、1階には英字新聞や地方新聞も置かれています。コピーカードを購入すれば、新聞や書籍をコピーすることもできますから、是非勉強や、関心分野の発見に役立ててもらいたいと思います。（当日の新聞はコピー不可など、著作権の問題もありますので、不明な点は司書の方に伺ってください。）また、図書館のHPでは、新聞のデータベースがあるので、興味のあるニュースについて短時間で調べることが可能です。

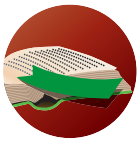
あっという間の大学四年間です。図書館を使いこなして、皆さんの学びが広く深くなることを願っています。

芸術文化学群3年　北堀 瑠香さん

【私にとっての図書館】

私にとって図書館はたくさんの本と出会え、色々な世界へと連れて行ってくれるワンダーランドの入り口のようなものです。私は図書館に行くとまず5階へ向かうのですが、そこには小説がたくさんあります。私は棚を左から右へと順番に見て目についた本を手に取り読むことが好きで、よく図書館内をうろうろしています。今まで読んだことのない作家の本と出会い、好きになり同じ作家の別の作品も読むことも多々あります。書籍の数も豊富で私は演劇専修なので演技についての本や戯曲などもよく借りて読みます。1年生の頃は「英語コア」の授業で使う本を借りによく図書館に行っていました。学而館にも借りる場所があるのですが、そこだと1回1冊までしか借りられません。しかし図書館だと15冊まで借りることができるので、数冊を1度に借りることができ便利です。最近ではレポートを書くための参考資料を読みに図書館を利用したりもしています。１階、3階、5階に机があるので資料を借りなくてもそこで資料を広げノートに書き写したり、図書館にはデスクトップパソコンとノートパソコンもあるので図書館でレポート作成もできます。

私のおすすめは1階の雑誌コーナーです。学習のための参考資料だけでなく、スポーツ、ファッション、音楽などの手に取りやすい雑誌もたくさんあります。日本の雑誌以外にも中国語や英語で書かれた雑誌もあります。その他にも図書館にはDVDやCDなどもあり、高校までの学校図書館にはなかった資料もあるのでとても楽しい場所です。



学生座談会

図書館スタッフから新入生へ ～ 1年生の時から大学図書館を有効活用！

◆桜美林大学図書館では図書館利用者のために様々な人が働いています。図書館のカウンターに座っている本の貸出や返却、利用者の相談に応じる閲覧担当、普段は表には出てきませんがみなさんが利用する本を書店に注文し、図書や雑誌・新聞の受入を担う受入担当、書誌を作成し、ジャンルごとに分類してIDラベルを貼ったりする整理担当がいます。図書館のあちこちで赤いエプロンを身につけ、館内を走り回っているのは学生アルバイトです。今日は新入生のみなさんに向けて、桜美林大学図書館で利用者のために働くスタッフたちに、大学での図書館利用についてあれこれ語ってもらいました。

参加者：島村捺未さん（リベラルアーツ学群4年・社会学専攻）、守田友輔さん（リベラルアーツ学群4年・日本地域研究(J)専攻）、佐久川祐子さん（リベラルアーツ学群3年・社会学専攻）、福田容子さん、阿部早織さん（閲覧カウンター担当）、茂木裕美さん、有山正晃さん（資料整理担当）

司会：学生のみなさんは大学図書館でどのように過ごしていますか？

島村：私は図書館でアルバイトを始めるまでは、主に読書するために図書館によく足を運んでいました。小説がある5階をよく利用していましたが、図書館でアルバイトするようになったら、いつもは足が向かないフロアにも本を運んでいくので、そこで様々なジャンルの本との出会いがありました。

守田：ぼくも同じですね。特に試験期間は貸出・返却される本が多くて、たくさんの本を元の本棚へせっせと戻しています。そんな時に普通なら興味を持たない本たちがたくさん目に入ってきます。

島村：なぜこの本が大学図書館にあるのだろう？という予期せぬ出会いが楽しいですよね。

佐久川：私は、1年生の頃は「英語コア」の課題をこなすため、英語のリーダー本を読みに来ていました。2年生になるとレポート提出の課題が増え、より多くの本を読まなくてはいけなくなり、更に図書館へ来る回数が増えました。本をきちんと読まないとよいレポートが書けないですから。

守田：ぼくは1階で新聞を読んでいることが多いです。いえ、他に行くところがないわけじゃないんですが（笑）ジャーナリストの池上彰さんの講演を聞いて、社会に目を向けるには新聞を読むことが大切ということを知ったのがきっかけかな。

司会：かつて学生だったおとなのみなさんは、どのように大学図書館を利用していましたか？

福田：私が学生の時は主に自習のために図書館を利用していました。私の母校の大学図書館にあるのは理系の専門書ばかりで、桜美林の図書館みたいに小説は所蔵してなかったんですよ。

茂木：私も大学図書館ではレポートを書いたり、書道の練習をしたり、、、大学図書館に畳敷の部屋があったんです。私の母校の図書館にも小説は少なかったですね。私にとって図書館は勉強のために行く処で、楽しく本を借りる場所ではなかったです。

有山：私は図書館に行くと専攻に関連する本をよく読んでいました。勉強のために図書館を利用していましたが、図書館で働くようになってから多くの本と接するようになり、読書の幅が増えた気がします。

阿部：私もレポートを書くために本を借りることが多く、専門書もたくさん利用しました。PCもよく利用しました。桜美林の図書館には幅広いジャンルの図書があると思います。

守田：ぼくはあまり知識がないのですが、みなさんの学生時代と比べて現在の図書館の蔵書や選ぶ本の傾向に違いがあるのでしょうか？現在の大学図書館は学生のための施設として蔵書も設備も充実してきていると思う。

司会：大学図書館は、例えば人文系、理工系では蔵書のジャンルや傾向がかなり違います。桜美林の図書館に小説があるからといって、他の大学図書館にも同じようにあるとは限りません。

茂木：大学図書館と公共図書館ではいろいろな点で線引きされますが、最近はラーニング・コモンズみたいな施設もあるし、個人的には学術資料を集めるだけでいいのかなと思うこともあります。読書そのものを楽しむために小説があってもいいですが、大学図書館なので方針によって違いは出てきますね。

守田：そうなんですか、ぼくはどこの大学図書館でも小説がふつうにあるのだと思っていました。

司会：大学図書館ならではの資料やサービスについて教えてください。

福田：学生のみなさんはあまり意識しないと思いますが、大学図書館にあって公共図書館にふつうはないものといえば、何といってもデータベースですね。

有山：大学図書館には洋書がたくさんあって、英語学習者にとってはとても素晴らしい環境です。もちろん学術書の蔵書は公共図書館とは比較にならないくらい多いです。

福田：桜美林にもある『日経BP記事検索サービス』というデータベースを知っていますか？日本経済新聞社が発行する多くの雑誌記事がPDFで読めるんですよ。バックナンバーも充実しているし。

島村：私はゼミ論を書く時に『CiNii Articles』（学術論文情報検索データベース）でたくさんの学術論文を調べて読みました。ホントに役に立ちました。

福田：守田さんは新聞が好きなんですよね？新聞記事検索のデータベースも充実しているので、過去の新聞記事を調べる時にとても便利ですよ。でも大学を卒業したら使えなくなってしまいます。

守田：ああ、そうなんですか。これから使ってみます。

島村：私は図書館企画「館内ツアー」に参加できてよかったです。私が思う大学図書館のいちばんいい点は、学習の場と一体化しているところ。図書館で授業の予習·復習ができます。

司会：大学図書館はここが便利！ということを教えてください。

茂木：電子書籍がたくさんあるのは学生にとっては便利じゃないですか？タブレットで読めるし、かさばらないから荷物にもならないし。多読が必要な英語のリーダー本も電子書籍なら楽ですよね。

阿部：ILL（InterLibraryLoan：図書館間相互貸借）サービスでしょう。桜美林の図書館に所蔵がない本を全国の大学図書館から借り受けたり、論文のコピーを手配してもらえます。1年生の頃はあまり需要がないかもしれませんが、これも大学図書館ならではのサービスのひとつです。

有山：ILLもそうだし、機関リポジトリ[注1]のような学術論文のオープンアクセス[注2]も便利ですね。

茂木：学生のみなさんは図書館のレファレンスサービスを有効活用してください。図書館の職員さんが図書館の使い方から資料探し、学習の手助けなど親切にアドバイスしてくれますよ。

佐久川：私はアルバイト中に本の場所を聞かれて、教えてあげて感謝されたことがよくあります。

守田：本の場所とか、コピー機の使い方とか。

島村：図書館の中で資料の場所が分からなくなる人は多いみたいです。

福田：分からないことは図書館員に質問することも大事ですね。

司会：大学1年生の頃にやっておけばよかったことはありますか？

守田：英語のリーダー本の多読です。英語のリーダー本は学而館でも借りられるのですが、大学図書館のほうが長い期間借りられることを知らなかった。

佐久川：読書好きなら、1年生の頃から小説や文庫本を利用するとよいと思います。全然知らない学術書や専門雑誌もたくさんあって面白いです。

島村：1年生の頃から図書館システムの「マイライブラリ」機能を使うことをお薦めします。私が「マイライブラリ」を使うようになったのは2年生の頃です。必要な本を検索してフォルダに分けて保存ができる、ブックマークできる、なんて便利！と思いました。

守田：ぼくは図書館ガイダンスをきちんと受けておくとよかったと思います。1年生の春学期は大学に馴染むのが精一杯であまり意識しないのですが、例えばリベラルアーツ学群の学生なら、2年次の秋学期に専攻を決めるのにとても役立つと思います。

福田：おとなからのお薦めは「1年生の頃からとにかく乱読！」です。私はいま学び直しのために岩波ジュニア新書をはじから読むということをしています。

後列左から、有山さん、阿部さん、茂木さん、福田さん
前列左から、佐久川さん、島村さん、守田さん

司会：それではみなさんから新入生に向けてひとことアドバイスお願いします。

守田：学生時代に新聞を読む習慣をつけましょう。ぼくもそうでしたが、自分の大学での学びや目的が漠然としている学生が多いように感じます。自分が興味を持っていることやテーマを見つける手段として、新聞を読むことは絶対に役に立ちます。

佐久川：私は「とにかく図書館に来ること」をお薦めします。時間ができたら大学の図書館に来る。座るだけでもいいから来る（笑）。私は、SAC（セルフアクセスセンター）でひまつぶしするより、図書館でひまつぶしのほうがいいと思っています。図書館にはPCだけじゃなく、本も雑誌もDVDもあるし。

島村：図書館に来るのを習慣にするのはよいこと。大学のキャンパスは広いので、私はよく迷っていました。でも図書館はスクールバス乗り場から坂を登ってすぐ左側、大学に来たらまずは図書館へ！

阿部：新入生のみなさんは、大学図書館だからって身構えないで、読書を楽しみに来てください。大学図書館は学生のみなさんのための施設ですよ。自分でハードルを上げないでほしいです。

有山：難解な本でも読み進めてみればきっと発見があります。いろんな分野の本を読んでみてください。

茂木：私たちは利用者さんのために本のデータを作り、分類・整理しています。私たちが整理した本をたくさん読みに来てください。

福田：まずは図書館に来てください。そしてどんな本でもいいから興味を持ったら借りてみましょう。どの本がよいかわからなかったら、読書運動プロジェクトの読プロ棚を頼りにしてはいかがですか？

守田：新学期に向けて読プロ棚もリニューアルします！

司会：みなさんありがとうございました。

（司会・構成：図書館メディアセンター　課長　佐々木 俊介）

注1：大学や研究機関、その構成員が研究成果を電子化して公開するシステム。
注2：学術論文や学術雑誌を誰でも無料でオンライン利用できるようにすること。

読書運動プロジェクト

2016年度秋学期 図書館読書運動プロジェクト活動報告

大学祭

10月29、30日の大学祭で、図書館読書運動プロジェクト（以下、読プロ）は活動紹介を兼ねた休憩所を出店しました。休憩所にはハロウィンの装飾を施し、無料で持ち帰ることができる本を用意しました。また、読プロの活動内容についてのポスターを掲示し、活動報告書を置いて、読プロの周知を行いました。

今回、2日間で59人の方にご来場いただきました。家族連れの方や読プロOB、図書館職員の方も来てくださいました。目立たない所にあったため多くの方に来ていただけるか懸念されましたが、大学祭で読プロの活動を紹介することが出来ました。（熊橋 真人）

合宿

ビブリオバトル優勝者の鈴木さん

9月3日から3日間、桜美林学園伊豆高原クラブで合宿を行いました。初日は伊豆ぐらんぱる公園を訪れ、読プロメンバー内で交流をしました。宿では本を持ち寄り、ビブリオバトルを開催しました。2チームに分かれて、それぞれ制限時間を設けての開催。優勝したのは、恒川光太郎さんの『夜市』を紹介した4年生の鈴木優花さんでした。2日目はイベントや図書館総合展などについてミーティングをしました。午後にはメンバー全員で11枚の紙を回してリレー小説を行いました。3日目は怪しい少年少女博物館を訪れ、伊豆を観光して無事に合宿を終えることができました。（石川 舞）

コメント大賞と『もし100』読書会

コメント大賞受賞者　左から
芳賀さん、佐久川さん、相良さん

12月9日に読プロが主導となり、図書館と生協と合同でイベントを開催しました。生協に出されたコメントマラソンのコメントカードから賞を決め、イベント当日に図書館長や図書館職員さん、生協理事長、桜美林大学の先生方をお呼びして授賞式を行いました。その後、『世界がもし100人の村だったら（完結編）』を課題本として読書会をしました。3チームに分かれ、各グループに参加してくださる図書館長や図書館職員の方、生協理事長や大学の先生方、参加してくださった学生さんと読プロメンバーで行いました。グループごとに多種多様な意見が出て、有意義なイベントとなりました。（石川 舞）

福袋

12月末に読プロメンバーと図書館の方と合同で、「本の福袋」を準備しました。「本の福袋」は袋ごとにテーマを決め、図書館の本を貸し出す催しです。貸し出す本のリストは読プロメンバーが作成し、それぞれ福袋のテーマと中に入れる本を決めました。リストの本は図書館の方に用意してもらい、合計36個の福袋を作成しました。貸し出しは、1月から3回に分けて行いました。今年は、図書館の出入り口付近に福袋のブースを設置させていただき、目のつきやすい場所で貸し出しをしました。たくさんの方に借りていただいて大盛況でした。（石川 舞）

図書館総合展

出展したポスターの前で守田さん

11月に横浜のみなとみらいパシフィコ横浜で図書館総合展が行われ、読プロもその中のポスターセッションに初めて参加しました。ポスターのテーマは「読プロの歩み」。ポスター全体を木に見立て、読プロが根っこの状態から現在まで何をして、どう成長してきたのかをまとめたものとなりました。

様々な団体が興味深い活動をしている中で、読プロは総合展最終日、総合展としても初めての試みとなった「全国学生協働サミット」にも参加してきました。いくつかの大学の代表者が壇上に立って自分の団体の活動を報告するというものですが、今回読プロは壇上に立ってスピーチを行うことはせず、チャットで意見を交換する方に回りました。読プロが初めて参加した図書館総合展でしたが、これまで親交のあった大学の方とも、これまで交流することのなかった大学の方とも話し合い、意見を交換することができました。（瀬戸 凌太郎）

POP大賞表彰式・授賞式とリレー小説

5月に行われたPOP講座で相模原中等教育学校の生徒さんたちが制作したPOPの大賞を決める投票が10月の大学祭を以て終了し、11月12日、三到図書館のラーニングコモンズでその表彰式・授賞式を行いました。

読プロはPOP大賞に加えて読プロ賞という賞を新しく作り、表彰しました。もちろん、受賞作品以外でも高く評価されたPOPは多くあり、中にはPOP講座の際、「1年以上構想を練ってきた」というものまであり、それにふさわしい出来になっていました。

表彰式の後、中高生たちの図書館内の見学とリレー小説を行い、両方とも皆さんに楽しんでいただけました。夢中で図書館の棚を見るところや、リレー小説で大学生のめちゃくちゃな話に対して丁寧に応えてくれる姿に、読プロメンバーも心が温まりました。

この企画は、もともと桜美林大学の読プロと相模原中等教育学校、それに相模大野図書館という三つの異なる組織が共同で作り上げるという企画で、その中で主役である中高生の皆さんが楽しんでくれたことが何よりの収穫でした。（瀬戸 凌太郎）

大学の先生とマンガ!!

マンガ読書会で熱く語る
片山先生と学生たち

大学図書館に漫画があれば…そんな思いから始まったのが『大学の先生とマンガ！！』企画です。そもそも図書館では原則漫画の購入希望は受け付けていなかったのですが、構想・企画から足掛け1年半、この度見事実現出来たのがこの企画です。桜美林大学の4人の先生に自分に影響を与えた漫画1作と活字の関連書籍を選書して頂き、それをもとに読書会を行ないました。レファレンスカウンター前にある漫画たちは学生の目をかなり引いたようで、漫画のみならず関連書籍もよく手に取られていました。読書会は、先生と学生が専攻を問わず一つの作品を語り合うことで距離が近づくので、かなり楽しんで頂けたようです。この企画を通して、漫画からさらに活字の図書へ手が伸びていけば良いと願うばかりです。（齋藤 杏実）

読プロメンバーから一言

大学院経営学研究科２年　賈 海姍

私は中国から来た留学生です。今はマスター一年生です。グローバル読書会に参加するきっかけで、読プロに入りました。読プロに入って、日本のサークルの文化を体験できました。また、メンバーはとてもやさしいです。読プロに入ってから、『世界がもし100人の村だったら』という本の読書会に参加しました。この書についても、日本の文化についても大変勉強になりました。読書会の時、メンバーや図書館の先生や大学の先生を通して、本場の日本の文化を体験できました。読プロに入ってから様々な経験ができるので、とても楽しいです。読プロが大好きです。

リベラルアーツ学群２年　芝田 康祐

私は読書運動プロジェクトに入りまだ日は浅いですが、『もし100』読書会などを体験して、一つの作品に対する皆の感想を聞き、今までより自分の視野が広がったり、作品に対する新たな印象を持つことが出来ました。それだけで無く、読プロのメンバーは皆、親切で温かな性格の人ばかりで、彼等と過ごす時間はとても楽しいです。将来、過去を振り返ったときに、皆と過ごした時間が、懐かしい思い出となっていることと私は確信しています。

ブログ、ツイッター、フェイスブックも検索してみてください。

ブログ　http：//obirin-read.jugem.jp/

twitter Twitterアカウント @obirin_reading　facebook 桜美林大学図書館読書運動プロジェクト

他にも読プロは、グローバル読書会の実施、ビブリオバトル全国大会予選参加、大学生協AO・推薦生の集いにブース参加、大学生協リーダーズネットワークの会議に参加など、2016年度秋学期もさまざまな活動を行いました。

（図書館メディアセンター　大谷 亜紀）

図書館からのお知らせ

図書館フロア・文献セミナーのご案内

◇ 図書館フロアのご案内 ◇

三到図書館は6階建、閲覧席は3つのフロアに別れています。フロアによって用途が異なりますので、簡単にとご紹介します。

◆図書館なのに会話OK？

図書館前の階段を上がって入館ゲートを通過すると、そこは三到図書館の3階です。ここは3階のラーニング･コモンズです。ここではグループで集まって図書や雑誌、データベースなど図書館にある様々な情報資源を使い、ディスカッションをしながらグループ学習ができます。このフロアの机はみなさんが使いやすいよう、自由に動かしてかまいません。ホワイトボードも自由に使い、様々なツールを駆使して、ディスカッションなどしながら学びを深めてください。ここは図書館の中ですが会話OKのフロアです。3階には参考図書（辞書・事典類）、指定図書、資格就職本、英語リーダー、DVDなどの多彩な資料があります。またDVD視聴コーナー、フリーアクセスPC16台、自動貸出機も揃っています。ラーニングコモンズから見上げる4階には社会科学、自然科学、医学の図書があります。

◆学術雑誌で論文情報収集

1階は雑誌と新聞を保管しています。和雑誌（日本）、洋雑誌（アメリカ、ヨーロッパ）、中国雑誌（中国、台湾）、大学の紀要（論文集）、国内外の新聞が収められています。3階は会話OKでしたがここは静かに勉強するフロアです。大学ならではの学術雑誌、専門雑誌の記事、紀要に収録された様々な学術論文を読むことで、最新の学術動向に触れることができます。講義によっては図書よりも雑誌記事や論文が必要になります。図書を読むより有益だったりすることもあります。現代の学生は雑誌や新聞を読んだ経験が少ない傾向がみられます。学生時代に、インターネットでの情報収集だけではなく、雑誌や新聞でも情報を収集して精度を高め、知識や考えを深める機会にしてはいかがですか？この上の2階には総記、哲学、宗教、歴史、地理の図書があります。

◆個別席で勉強に読書に集中

5階には技術、工学、産業、芸術、スポーツ、言語、文学の図書があります。岩波文庫や中公新書なども揃っています。閲覧席の反対側のフロアには楽譜、大型図書、貴重な中国図書を保管しています。この上は6階ですべて洋書（主に英語）の図書があります。

5階の閲覧席はすべて1人用になっています。1階よりも座席数が多いので多くの学生が勉強できます。授業期間中や定期試験期間は多くの学生が静かに勉強や読書に集中しています。お天気のよい時には窓際の席に人気が集まるようです。

（図書館メディアセンター　課長　佐々木 俊介）

◇ 文献探索セミナー ◇

個人向けに、セミナーを開催しています。詳細は後日図書館HPやe-Campusでお知らせします。どうぞご利用ください。

セミナー	開催場所	内容
図書館探検 ～図書館ツアーコース～	三到図書館（本館）	図書館学生サポーターが館内を案内します。 図書館の資料と利用方法がわかります。
本を探そう ～ OPAC 検索コース～	三到図書館 3F（ラーニング・コモンズ）	蔵書検索（OPAC）での本の検索方法と本棚での探し方がわかります。
新聞記事を探そう ～新聞記事検索コース～	三到図書館 3F（ラーニング・コモンズ）	新聞記事のデータベースで必要な記事が探せます。
論文を探そう ～雑誌論文検索コース～	三到図書館 3F（ラーニング・コモンズ）	雑誌論文のデータベースで論文の探し方がわかります。
レポート・論文の書き方を学ぼう	三到図書館 3F（ラーニング・コモンズ）	情報の探し方からレポート・論文の書き方まで学びます。

（図書館メディアセンター　主任　矢部 知美）

● 編　集　後　記 ●

国公私立様々な大学の学生と教職員が集まる会議に参加した時、学生から「学生は社会へ出るまでの準備期間、私たちは社会人となるまでにもっと社会のことを知らねばならない」という発言があった。私はこれを聞き「学生は社会の一員ではないのか？」という疑問が湧いた。／かれらが“社会人＝職業人”という意味で用いているのは分かるが、それでも学生は学生として「社会の一員」であるはずだ。青年のモラトリアム期間は重要だし、それを否定するつもりは毛頭ないが、だからと言って殊更（ことさら）自らを社会の外に置くこともなかろう。／ところで社会を知るためにはどうすればよいだろう。例えばインターネットやテレビ、新聞記事でいま起きていることを知り、入門書や専門書を読み理解を深め、更には同世代や世代の違う友人と議論し、専門家に教えを乞うことなどが考えられる。そして大学とはそういうことがいつでもできる処だ。新入生諸君も「社会の一員」として来るべき学生生活を送ろう。（S）

発行所：桜美林大学図書館メディアセンター　住所：東京都町田市常盤町3758　URL：http://www.obirin.ac.jp/library/
三到図書館（042−797−1426）・四谷キャンパス（千駄ヶ谷）図書室（03−5413−8251）